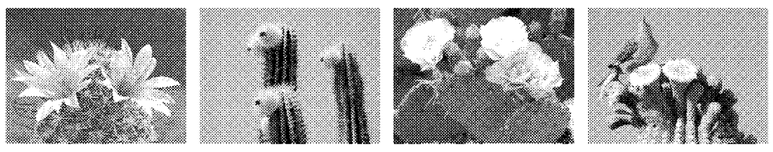
苛酷な自然にあっても、生命（いのち）は花を咲かせます。



私たちは、生命の不思議を見逃しません。

キッセイ薬品は、世界の人々の健康のため、
さまざまな分野の新薬の研究・開発に、
とり組んでまいります。

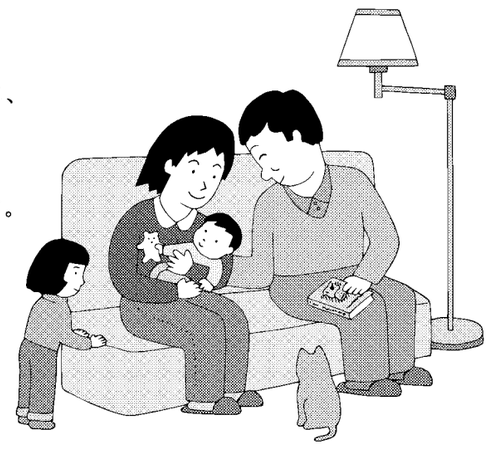
KISSEI
キッセイ薬品工業株式会社
本　社：〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号
東京本社：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号キッセイ日本橋ビル
〒112-0002 東京都文京区小石川3丁目1番3号キッセイ小石川ビル
U R L：http://www.kissei.co.jp/

シェーグレン症候群とドライマウス、前立腺肥大症と排尿障害などについての分かりやすい情報をウェブサイトで提供しています。　キッセイ健康劇場　検索

人生は長い。だからこそ考えたいのは

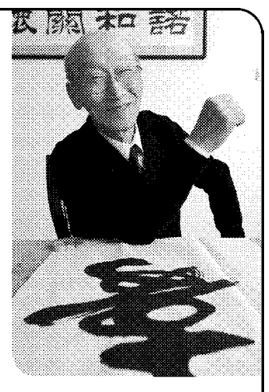
健康寿命。

日本新薬は、
一人ひとりの命のために、
健康寿命が延びる、
そんな未来のために、
新しい薬を創っています。



健康未来、創ります
日本新薬
NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

より良い治療法を求めて



ノボ ノルディスクは 1923 年の創業以来、患者さんの治療成績を向上させるため、糖尿病治療の研究開発に取り組んできました。長い歳月を掛けて蓄積されたタンパク質工学に関する専門知識と技術を応用して適応拡大や次世代の新製品の開発に努めています。
私たちは、高品質の製品とサービスを提供することで、糖尿病治療に貢献し、また、患者さんにとって最大の願いである糖尿病治療の治癒に向けても最善を尽くしています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社は、
デンマークのノボ ノルディスク社の日本法人です。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話(03)6266-1000(代表)　FAX(03)6266-1800
www.novonordisk.co.jp

novo nordisk®

糖尿病をもっと知ろう 糖尿病サイト
糖尿病サイト　検索　(http://club-dm.jp)
携帯電話はこちらから

製薬産業

国際連携で 全世界に貢献

interview

国内の医薬品市場は、生産額ベースで約7兆円。高齢化を背景に毎年拡大している。景気に左右されにくく、安定した収益を得られることもあり、自動車や電機産業に代わる経済成長のけん引役として期待が高まる。その一方で、他産業と同じく新興国の追い上げなど継続的な成長を脅（おびや）かす状況も出てきている。画期的な新薬の創出を目指す研究開発志向型の製薬企業70社が集まる日本製薬工業協会（製薬協）の手代木功会長（塩野義製薬社長）に、製薬産業の特徴や課題、今後の方向性などを聞いた。

日本製薬工業協会会長 手代木（てしろぎ） 功（いさお）氏

―経済状況が不安定な中、製薬産業の存在感が高まっています。

「製薬産業は日本に残された数少ない成長産業であり、研究開発により医薬品を作り出し、特許によって守られた権利の中で製造販売するビジネスモデル。知的財産によって収益を得ている。天然資源の少ない日本の事情にかなった産業と言える。新薬を生み出す力を持つ国は先進国でも限られており、世界売上高100位以内を占める新薬の起源国のランキングで日本は3位。アジアで唯一の新薬創出国だ。だが、自動車や電機産業などと同様に中国、韓国などが国を挙げて研究開発を進めており、産業振興や税制などの支援も積極的だ。日本も追いつかれないよう、研究開発を促進する税制の強化や、産官学連携を強化して競争力を磨かないといけない。国のバックアップが必要だ」

―製薬産業は事業活動を通じ他産業ではないような社会貢献ができると強調しています。

「医薬品は国民の健康増進に大きく寄与するだけでなく、全世界の人々へ貢献できる。事業は景気に左右されにくく、安定的に税制面でも貢献できる上、理系文系問わず、あらゆる学部の新卒者を雇用する機会がある。また、大学や研究機関との共同研究でもかなりの実績を持ち、最先端研究の発展などにも協力しているという自負がある」

―国際的な連携にも積極的です。

「これまで新薬の創出で主導的な立場をとってきた日米欧では、医薬品の安全性や有効性を確かめる臨床試験の手続きをできる限り標準化しようという動きがあり、日米欧三極医薬品規制調和国際会議（ICH）という場で議論を進めている。例えば、日本で臨床試験を終えて発売するために必要な安全性、有効性を証明するデータがそろっているのに、承認基準が違うので米国でもう一度臨床試験をするとなると、時間やコストが余計にかかる。これでは非効率で世界の患者に早く優れた医薬品を届けるという意義に反する」

「近年は、医薬品の市場として見てもアジアをはじめとする新興国の成長が著しい。製薬協はアジアの製薬団体との連携を深めている。3月に初めて開催したアジア製薬団体連携会議（APCPA）がその象徴といえる。ミッションとして掲げた『革新的な医薬品をアジアの人々に速やかに届ける』を一日でも早く実現したい。日本を含めたアジア全域での審査基準の標準化が実現すれば産業活性化につながるし、まさにミッションの実現につながると確信している。新薬のタネを一緒に生みだし、画期的な新薬の創出につながるような協力もしていきたい」

―国内では、製薬業界を巡る環境の変化が著しいです。

「医師に処方してもらう医療用医薬品のほとんどは公的保険制度の下で使用され、保険料や税がそれを支えている。そのため、価格を政府が決めている。昨今は増大する医療費を抑えようという観点から、低価格の後発薬（ジェネリック）の利用が促進されている。しかし、前回も今回も行われたが、改定直前になって、長期収載品の追加引き下げを行うといった措置はまったく納得がいかない。製薬協としての薬価問題の最大のテーマは、画期的な新薬の創出に向けた『新薬創出・適応外薬解消等促進加算』制度の恒久化である」

「社会のコンプライアンスへの意識の高まりを受け、製薬産業全体の信頼性をさらに高めるため、情報公開の一環として医療機関に対する一連の企業活動や、患者団体との関わり方について透明性ガイドラインを策定した。さらに、今後の取り組みとして、プロモーションコードの対象を営業部門だけでなく、研究開発など企業活動全体に広げていくことも考えている」

中国ビジネス積極化

成長市場で販売拡大

アジア、とりわけ極東を含む東南アジア地域は、中長期的に経済成長が続くとされている。人口も増加傾向にあり、先進各国に替わって世界成長のけん引役となることが期待される。製薬企業もこうしたアジア地域に市場としての魅力を感じ、新薬の投入を目指すほか、研究拠点としての活用も進めている。アジア最大の医薬品市場になりつつある中国でも、具体的な戦略を描きつつある。日本では爆発的な成長が見込めなくなり、将来、製薬企業の成長をアジアが担うことになると見られている。

国内製薬企業各社は最近、中国戦略を相次いで打ち出している。中国の医薬品市場は急速なスピードで拡大し、2015年にも日本を抜いて世界第2位の市場になると言われる。成長市場の中国で〝バスに乗り遅れない〟よう、最善策を打つ。

中国は経済成長により、早くも生活習慣病の増加や高齢化などの問題が現れ、先進国と同様の医療ニーズが出てきている。一方で、農村部は満足な治療水準になく、感染症などに悩まされているケースもあるという。地元企業の存在や流通の未整備など、ビジネスが難しい国であるという指摘もある。

武田薬品工業は中国の売上高を15年度500億円に引き上げる計画。営業人員も900人以上に増やすことを決めている。毎年約30％ずつの成長を目指し、新薬の投入を進めるほか、昨年買収したスイスの製薬企業、ナイコメッドの販売ネットワークも活用する。医師の処方箋不要の大衆薬（OTC）に関しても、ドリンク剤などの中国進出を本格検討している。中国での新薬展開は、がん領域を除き15年末までに7品目の発売を見込む。3品目は第3相試験を実施中で、4品目は第3相試験を準備中という。

アステラス製薬は14年度末にアジアでの売上高を10年度比倍の600億円超を目指す。そのうち半分以上を中国が占めるとする。これに向け、医薬情報担当者（MR）の増員計画を進めており、12年度末には600人体制になりそうだ。現地では米ファイザーなどの外資系大手がMR増員を進めるなど、採用ラッシュが続いている。

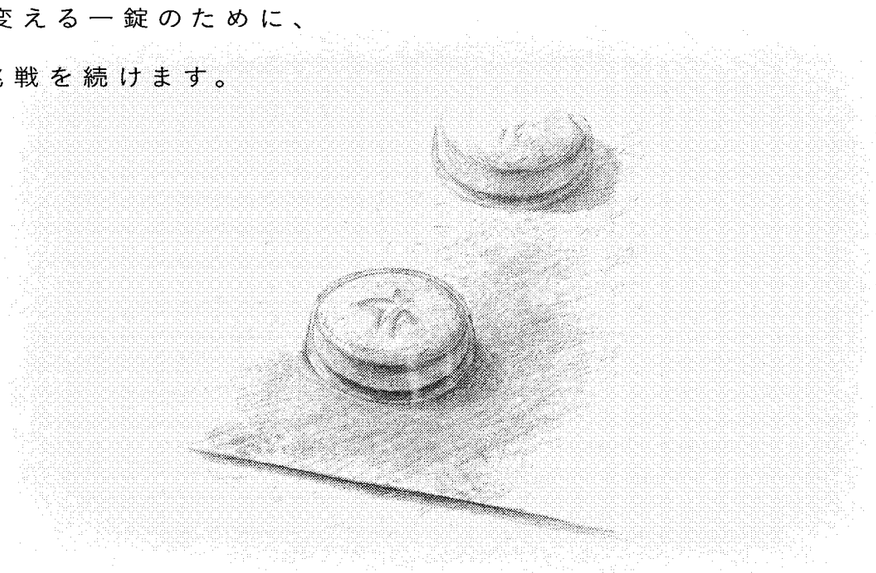
第一三共は11年に事業統括会社を設置し、北京と上海の2法人を統括する。中国事業の目標は15年度に現状の約4倍の売上高400億円。営業体制も今後4年で300人増やし750人体制にする。

また、後発薬（ジェネリック）の販売強化も打ち出した。上海欣生源医薬集団（上海市）から、医薬品卸事業子会社を買収。インドグループ会社のランバクシー・ラボラトリーズの豊富な後発薬や、他社から販売権を得た製品を自社流通網で扱えるようにした。

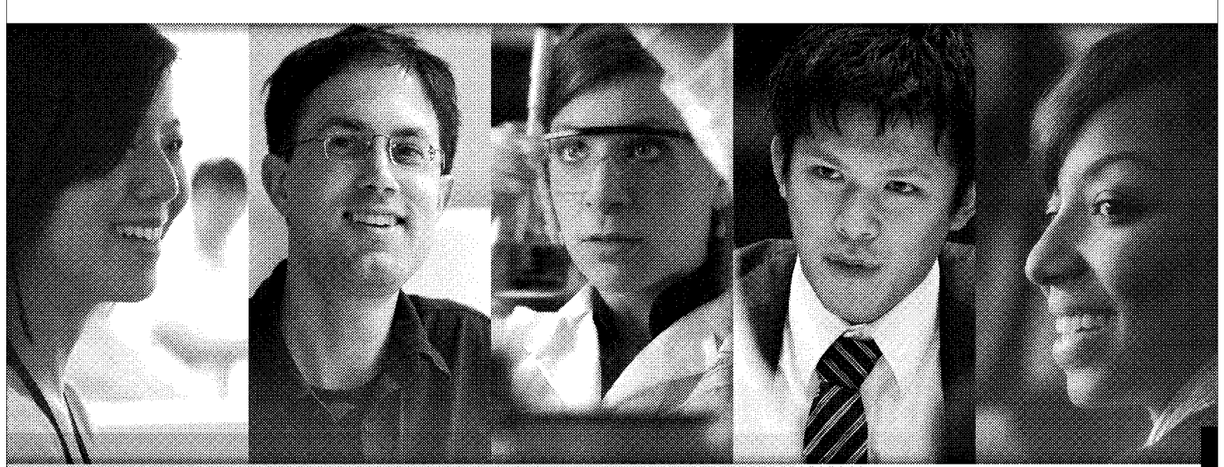
アステラス薬は臓器移植時の拒絶反応抑制剤「プログラフ」を中国展開している

世界にまだないくすりのために。

まだ治せない病気とたたかう人たちの、支えになりたい。
まだないくすりを待つ世界中の人たちの、期待にこたえたい。
世界の明日を変える一錠のために、
わたしたちは挑戦を続けます。



明日は変えられる。
astellas
アステラス製薬
www.astellas.com/jp/



世界中の「いのち」のために、タケダの挑戦はつづく。

創業から230年。タケダはいつの時代も、かけがえのない「いのち」と正面から向き合ってきました。
一日でも早く医療の現場、患者さんのもとへ画期的な新薬を。それが私たちのずっと変わらぬ使命です。

さらなる情熱と決意とともに、これからタケダはもっと世界へ。全ての社員のチカラをひとつに、より多くの人々に優れた医薬品を届けていきます。世界中の健やかな明日と、医療の未来に貢献するために。

タケダの挑戦に終わりはありません。

www.takeda.co.jp　武田薬品工業株式会社